

■北海学園大、帯広畜産大が白星発進。秋季リーグが開幕

第49回北海道学生選手は8月27日、悪天候が予想されたために当初予定した札幌市円山競技場から札幌市清田区の北海学園清田グラウンドに会場を移し、第1節の1部2試合を行った。帯広畜産大（前年4位）は、2年ぶりに1部に復帰した室蘭工業大に16-6で競り勝った。第2試合の北海学園大（前年2位）と北星学園大（前年5位）の対戦は、落雷の恐れのために前半終了時点で大会規定により終了となったが、北海学園大が42-0で圧勝した。冠試合として予定した第50回肢体不自由児者チャリティゲーム・ポテトボウル2023は会場変更に伴い中止となった。第2節は9月3日、札幌市円山競技場で2部の東京農業大-札幌学院大、1部の北海道大-室蘭工業大の2試合を行う。



第1試合は、ユニホームを新調した同士のメモリアルゲームとなった。先手を取ったのは帯広畜産大。第1Q4分、QB外崎智文（3年、大野農業高）がWR桂田陽向（2年、福井・若狭高）へ29ヤードのパスを決めて6-0と先制した。第3Q5分には、QB外崎が自らの5ヤードランでTD。Kも兼ねるWR桂田のPATのキックも決まり13-0とリードを広げた。室蘭工業大の反撃は第4Q4分。RB富樫司（3年、札幌清田高）が53ヤードのビッグランでエンドゾーンに走り込みTD。PATのキックはブロックされたが、6-13と追いつけた。しかし、帯広畜産大は同8分、K桂田が27ヤードのFGを決めて16-6として、室蘭工業大を突き放した。

帯広畜産大の玉川雄太HCは「早めに先制点が取れ、前半を無失点に抑えてリズムに乗れた。課題はランが思った以上に出なかったこと。2戦目に向けて修正したい」と白星発進にも気を引き締めた。TDキャッチに加え、DBとして2インターセプトにFGも決め

たWR桂田は「TDは最初の攻撃シリーズで。ロングパスを捕り、そのまま走った。絶対にTDを取ると決めていた。インターセプトは狙っていた。FGはまっすぐ蹴ることを心がけた」と大活躍に胸を張った。一方、室蘭工業大の半沢監督は「帯畜はスピードが速く、こちらは1年生QBでプレーが雑になった。次に向けて、まだ完成していないプレーを仕上げたい」と巻き返しを期していた。



第2試合は北海学園大が攻守に北星学園大を圧倒した。北海学園大は、北星学園大の最初のプレーでDB櫻田裕丈（2年、静内高）がインターセプトでボールを奪うと、続く攻撃シリーズでQB篠原浩大（4年、札幌北陵高）がWR成田滉佑（2年、札幌白石高）に27ヤードのTDパスを決めて先制。試合開始のキックオフから23秒の速攻だった。第1Q2分に、RB高杉武生（3年、浦河高）が20ヤードTDランで加点すると、同5分にはQB篠原が再びWR成田へ8ヤードのTD弾を決めた。

第2Qも北海学園大の猛攻が続き、1分にQB篠原がWR加藤真之助（2年、札幌藻岩高）へ41ヤードのロングパスでTDを追加すると、同8分にはRB内田直哉（1年、立命館慶祥高）が6ヤードランでTD。同10分にはDB野原寛生（2年、滋賀・長浜北高）がパントリターンをそのままエンドゾーンに持ち込んだ。

高木幸樹HCは「QB篠原は落ち着いてプレーできた。第1プレーでTDが決まり、試合の流れができた。RB内田など1年生も一生懸命やってくれた」と収穫を挙げながら「あとは守備が自分の役割を果たすこと」と、北星学園大に許したロングパスに苦言を呈した。リーグ戦初先発で3TDパスのQB篠原は「まだ満足していない。詰めの甘さがある。他チームのスカウティングをしっかりと行い、次の試合に備えたい」と浮かれていなかった。